

モノづくりを支える 中部のエネルギー産業

安定した電力供給を

中部電力の2011年度の電力販売量は前年度比2・9%減の1271億kWhを見込む。産業用の大口顧客を中心に、東日本大震災の影響による生産の落ち込みも回復した。中部地区にエネルギーを供給する中部電力は電力販売量が産業用の大口顧客を中心に持ち直し傾向にある。ただ菅直人首相の要請により6月に浜岡原子力発電所(静岡県御前崎市)を全面停止、原発なしでの事業運営を迫られている。浜岡原発の安全性向上に努力するとともに、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーの推進で持続可能な社会の実現を目指す。

東日本大震災での東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けて原発の再稼働が求められている。中部電力は、原発の役割は重要だが、水野明久社長と強調する。浜岡原発は大地震の可能性が高い地域に立地しているとして全面停止の事態となったが、高さ18mの防波壁の建設など津波対策に1000億円を投資して安全性を高める。

浜岡原発停止により電力供給が逼迫し、火力発電所の増強などで電力の安定供給を図っている。武豊火力発電所(愛知県武豊町)では休止予定だった3号機の運転を再開し、休止中だった2号機を7月に再稼働し

た。同様に知多第二火力発電所(同知多市)の2号機が8月10日に再稼働した。また新名古屋火力発電所(名古屋港区)や四日市火力発電所(三重県四日市市)、川越火力発電所(同川越町)では期

点検時期の変更や期間短縮で夏の供給力を確保した。それと併せて、9月3日期に9億3000万kWh、10月3日期に9億3000万kWh、11月3日期に9億3000万kWhの目安とされている。また、9月3日期に20億円に引き上げる計画。

愛知電機は自社の電力変換設備と他社の太陽光発電パネルなどを組み合わせた太陽光発電システムを電力会社や工場に売り込んでいる。海外では政府開発援助(ODA)案件で中東やアフリカで受注した。3月に本社内

に同システムの実証設備を設置し、非常用電源としての活用アイデアなどを蓄積して顧客を開拓、年間売上高10億円を目指す。風力発電では、中部電力は1月に御前崎風力発電所(御前崎町)の風力発電機を8基増の11基とした。出力2万2000kWに高まった。

また、子会社のシートック(名古屋瑞穂区)も山岡中心に展開している。三重県に「ウィンパルク美里(津市)」と「ウィンパルク伊賀市(津市)」(三東伊賀市)と、同社子会社が運営する「青山高原ウィンパルク」(同)があり、合計出力は6万9000kW。今後は岐阜県の大垣市と関ケ原に「ウィンパルク南伊吹」を建設予定で、4月に環境省セブメント調査を始めた。出力3万2000kWで16年度に稼働する計画。

再生可能エネルギーとしては古くからある水力発電設備を増強する。中部電力は三東企業庁から水力発電所10カ所、ダム2カ所を105億円、15年までに譲り受ける。



2号機と3号機が再稼働した中部電力の武豊火力発電所

新エネルギーを推進

中部電力は節電への意識向上を目的に公共広場「オアシス21(名古屋市中区)」に高さ10mのヘチマとニガウリからなる「緑のカーテン」を設けた。カーテンを見た人が家庭や会社にも設けてもらい、エアコンの効率運

転につなげてもらう考え。また、鍛造工場向けのエネルギー効率利用システム「みえるキャスト」を富士電機、トリエックと共同で開発した。鋳物工場の日々の生産計画に基づいて溶解・鋳造型のタイミングを合わせた操業スケジュールを自動で作成。エネルギー消費を最小に抑える。シミュレーションでは溶解炉の電力使用量を10%削減したという。

原発事故後に注目が高まっている太陽光や風力などの再生可能エネルギーも積極的に導入している。2030年までに再生可能エネルギーによる発電量を10・15%にする計画だ。特に太陽光発電は、発電パネルメーカーの競争が激しくなるにつれて性能向上や低価格化が図られ、普及が進んでいる。電力の屋

間のピーク需要緩和や、二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスの排出量削減ができるため、今後の成長産業として期待が大きい。

また、1月に同社の大規模太陽光(メガソーラー)発電所「アグリソーラー」(長野県飯田市)を稼働した。出力1000kW。10月には出力7500kWのメガソーラー「たけとよ」(愛知県武豊町)が稼働する。さらに出力8000kWの「アグリソーラー」(静岡県清水区)を14年度の稼働目標とし12年度に着工する。こ

れで一般家庭4600世帯分の年間使用電力を発電。年間6000トンのCO2削減を見込む。太陽光発電事業はグループ会社も積極的に事業展開している。トリエックは一般家庭や企業向けに太陽光発電パネルの販売、設置工事を行っている。12月に大高営業所(名古屋瑞穂区)に国内外メーカー10社のパネルを設置し、発電効率やコ

ストを比較する試験を始め、比較データの作成で営業を強化、11年3月期に9億3000万kWh、10月3日期に9億3000万kWhの目安とされている。また、9月3日期に20億円に引き上げる計画。

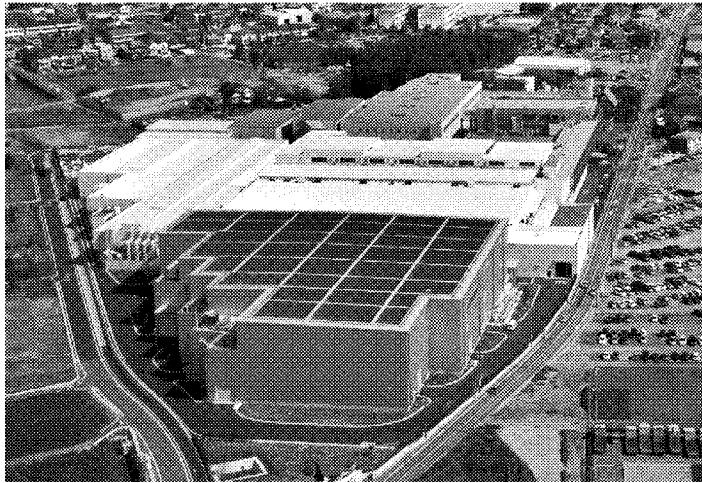
愛知電機は自社の電力変換設備と他社の太陽光発電パネルなどを組み合わせた太陽光発電システムを電力会社や工場に売り込んでいる。海外では政府開発援助(ODA)案件で中東やアフリカで受注した。3月に本社内

に同システムの実証設備を設置し、非常用電源としての活用アイデアなどを蓄積して顧客を開拓、年間売上高10億円を目指す。風力発電では、中部電力は1月に御前崎風力発電所(御前崎町)の風力発電機を8基増の11基とした。出力2万2000kWに高まった。

また、子会社のシートック(名古屋瑞穂区)も山岡中心に展開している。三重県に「ウィンパルク美里(津市)」と「ウィンパルク伊賀市(津市)」(三東伊賀市)と、同社子会社が運営する「青山高原ウィンパルク」(同)があり、合計出力は6万9000kW。今後は岐阜県の大垣市と関ケ原に「ウィンパルク南伊吹」を建設予定で、4月に環境省セブメント調査を始めた。出力3万2000kWで16年度に稼働する計画。

再生可能エネルギーとしては古くからある水力発電設備を増強する。中部電力は三東企業庁から水力発電所10カ所、ダム2カ所を105億円、15年までに譲り受ける。

建物緑化のニーズ増 ヒートアイランド現象を緩和



中部地区最大級となる工場の屋上緑化(同社施工)

中電不動産

都市におけるヒートアイランド現象の緩和や地球温暖化防止、生物多様性の確保など、世界的に「緑」の重要性が再認識される中、中電不動産(名古屋市中区)では建物の緑化システムを開発した。同社の「C.P.緑化システム」は、5種類の屋上緑化と2種類の壁面緑化工法で構成。屋根形状や荷重制限、用途などの条件に合わせて、コケやセダ、芝、樹木から任意に選択できる。緑地比率の確保、景観性の高い植栽からデザインの自由度が要求される商業施設まで、幅広いニーズに対応した緑化が可能である。

良好な都市環境を創造するため、各地で緑化推進策の制度化が進む傾向にあり、同社は民間事業者や工場での緑化需要増大を先取りし、中部地区でトップクラスの施工実績を上げている。

原発事故後に注目が高まっている太陽光や風力などの再生可能エネルギーも積極的に導入している。2030年までに再生可能エネルギーによる発電量を10・15%にする計画だ。特に太陽光発電は、発電パネルメーカーの競争が激しくなるにつれて性能向上や低価格化が図られ、普及が進んでいる。電力の屋間のピーク需要緩和や、二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスの排出量削減ができるため、今後の成長産業として期待が大きい。

また、1月に同社の大規模太陽光(メガソーラー)発電所「アグリソーラー」(長野県飯田市)を稼働した。出力1000kW。10月には出力7500kWのメガソーラー「たけとよ」(愛知県武豊町)が稼働する。さらに出力8000kWの「アグリソーラー」(静岡県清水区)を14年度の稼働目標とし12年度に着工する。こ

れで一般家庭4600世帯分の年間使用電力を発電。年間6000トンのCO2削減を見込む。太陽光発電事業はグループ会社も積極的に事業展開している。トリエックは一般家庭や企業向けに太陽光発電パネルの販売、設置工事を行っている。12月に大高営業所(名古屋瑞穂区)に国内外メーカー10社のパネルを設置し、発電効率やコ

ストを比較する試験を始め、比較データの作成で営業を強化、11年3月期に9億3000万kWh、10月3日期に9億3000万kWhの目安とされている。また、9月3日期に20億円に引き上げる計画。

愛知電機は自社の電力変換設備と他社の太陽光発電パネルなどを組み合わせた太陽光発電システムを電力会社や工場に売り込んでいる。海外では政府開発援助(ODA)案件で中東やアフリカで受注した。3月に本社内

に同システムの実証設備を設置し、非常用電源としての活用アイデアなどを蓄積して顧客を開拓、年間売上高10億円を目指す。風力発電では、中部電力は1月に御前崎風力発電所(御前崎町)の風力発電機を8基増の11基とした。出力2万2000kWに高まった。

また、子会社のシートック(名古屋瑞穂区)も山岡中心に展開している。三重県に「ウィンパルク美里(津市)」と「ウィンパルク伊賀市(津市)」(三東伊賀市)と、同社子会社が運営する「青山高原ウィンパルク」(同)があり、合計出力は6万9000kW。今後は岐阜県の大垣市と関ケ原に「ウィンパルク南伊吹」を建設予定で、4月に環境省セブメント調査を始めた。出力3万2000kWで16年度に稼働する計画。

再生可能エネルギーとしては古くからある水力発電設備を増強する。中部電力は三東企業庁から水力発電所10カ所、ダム2カ所を105億円、15年までに譲り受ける。

また、子会社のシートック(名古屋瑞穂区)も山岡中心に展開している。三重県に「ウィンパルク美里(津市)」と「ウィンパルク伊賀市(津市)」(三東伊賀市)と、同社子会社が運営する「青山高原ウィンパルク」(同)があり、合計出力は6万9000kW。今後は岐阜県の大垣市と関ケ原に「ウィンパルク南伊吹」を建設予定で、4月に環境省セブメント調査を始めた。出力3万2000kWで16年度に稼働する計画。

再生可能エネルギーとしては古くからある水力発電設備を増強する。中部電力は三東企業庁から水力発電所10カ所、ダム2カ所を105億円、15年までに譲り受ける。

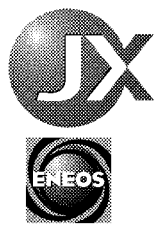
モノづくりを支える 中部のエネルギー産業

環境創生企業

日本空調サービス株式会社
http://www.nikku.co.jp

NDS 日本電話施設株式会社

代表取締役社長 伊藤 卓志
〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目15番18号
TEL (052) 263-5011 FAX (052) 263-5088
URL: http://www.nds-g.co.jp



エネルギー・資源・素材のXを。
JX日鉱日石エネルギー株式会社
中部支店
支店長 松井 信治
〒450-6214 名古屋市中村区名駅四丁目7番1号
TEL 052-746-5065 ミッドランドスクエア

中部電力グループ

快適づくりのプロフェッショナル

TOENEC

電気設備・空調管設備・情報通信・エコソリューション・住宅関連事業

株式会社 トーエネック 本店/名古屋市中区栄1-20-31 〒460-0008
TEL.052-221-1111 http://www.toenec.co.jp

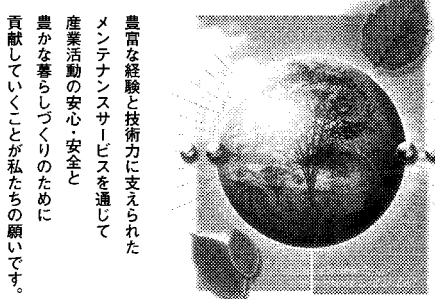
中部電力グループ

愛知電機株式会社

〒486-8666 愛知県春日井市愛知町1番地
http://www.aichidenki.jp

50th 感謝でつなぐ未来への絆 おかげさまで50周年

中部電力グループ



地域と社会のために
できること...

株式会社 中部プラントサービス (ISO9001・ISO14001認証取得)
本店 〒456-8516 名古屋瑞穂区五本松11番22号 ☎ (052) 679-1200 (代) http://www.chubuplant.co.jp/

営業項目 ● 電気・ガス供給・換気設備・環境プラントの建設・保守・運転事業 ● 電気・計装設備の建設・保守 ● 設備機器の修理・点検・診断



この星からもらうもの、
この星にかえすもの。
この星の恵みから、日本ガイシの製品は生まれてきました。その恵みに応えるため、先進的なセラミック技術で、環境を守り豊かな暮らしを育むための新しい価値を創造していきます。

日本ガイシ
NGK
〒467-8530 名古屋瑞穂区須田町2-56 www.ngk.co.jp

中電不動産

中部電力グループ



感謝の気持ちを携えて、土地・建物にかかわる総合的なサービスをご提供します。

中電不動産株式会社

本社/〒460-0008 名古屋市中区栄2丁目2番5号電気文化会館内
TEL.052-204-1383 http://www.chudenfudosan.co.jp

人と暮らしの環境テクノロジー FUJIRESIN



富士レジン工業株式会社
名古屋営業所
〒465-0013 名古屋市中東区社口1丁目913番地
TEL 052-771-3866 FAX 052-776-7056

http://www.fujiresin.co.jp



ENERGY SUPPORT
〒484-8505 愛知県大山市宇上小針1番地
Tel.0568 (67) 085190 Fax 0568 (67) 4802
エナジーサポート株式会社
http://www.energys.co.jp/

技術でサポート

私たちエナジーサポートは、地球にやさしい企業を営むためにエネルギーの有効利用など、永年研究開発を続けてまいりました。また、さらに、より豊かな生活の実現と、人と自然が調和する社会の構築に貢献できるよう、技術革新による新たな創造と挑戦を続けてまいります。

確かな技術 明日をクリエイト

C-Tech

事業内容 ● 技術コンサルタント・施工・保守 [電気・情報通信・土木建築・環境保全] ● 有線テレビジョン放送事業 ● 地域熱供給事業 ● 風力発電事業

本店/名古屋瑞穂区洲雲町4-45 Tel.052-852-6911 (代) http://www.ctechcorp.co.jp 株式会社 シーテック